

平成 18 年度国立情報学研究所実務研修報告

平成 18 年 9 月 29 日

北海道大学附属図書館情報システム課目録情報第二係

三瓶由紀子

目次

- 1.研修の目的
- 2.研修先および研修期間
- 3.研修内容
 - 3.1 スケジュール
 - 3.2 研修テーマ設定の動機
 - 3.3 視聴覚資料に関する検討
 - 3.4 研修、報告会
- 4.成果物
- 5.研修終了後の検討体制
- 6.研修環境、受入体制
- 7.研修の感想
- 8.資料

1.研修の目的

国立情報学研究所における実務を経験することにより、高度の学術情報システムの緩急に対応しうる知識と技術を修得し、学術情報流通基盤整備事業の中心的役割を担う人材の育成を目的とする。

本研修では、視聴覚資料の取扱いについて検討をおこなう。視聴覚資料を NACSIS-CAT に登録する場合の基準が整備されていないため、書誌レコードの品質が一定していない。また、レコード調整作業も困難である。よって、視聴覚資料に関する取り扱いマニュアルを整備し、この状況を改善する。

2.研修先および研修期間

研修先：国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課目録情報管理係

研修期間：平成 18 年 7 月 3 日(月) ～ 9 月 29 日(金)

3.研修内容

3.1 スケジュール

(1)視聴覚資料取扱案検討スケジュール

平成 18 年 7 月	文献調査、事例調査、マニュアル案作成、第 1 回検討会議
8 月	事例調査、マニュアル案作成・検討、第 2 回検討会議
9 月	事例調査、マニュアル案作成・検討、第 3 回検討会議
10 月	事例調査、マニュアル案作成・検討、第 4 回検討会議
11 月以降	マニュアル案作成・検討、最終案確定 最終案公開・意見公募 最終版確定
平成 19 年	運用開始

(2)研修日程（視聴覚資料検討関係）

- 7/3 研修開始
- 7/6 コンテンツ課セッション参加（慶応大学）
- 7/7 在外派遣研修報告会参加
- 7/7 視聴覚資料検討会議用メーリングリスト設置
- 7/13 情報セキュリティ研修会出席
- 7/18 視聴覚資料検討会議用サイト開設
- 7/25 SPARC/Japan 連続セミナー聴講
- 7/26 学術ポータル担当者研修聴講
- 7/27 学術ポータル担当者研修聴講
- 7/28 第 1 回視聴覚資料検討会議開催 10：00～12：00
- 8/1 第 2 回開発・事業部専門研修：海外書誌ユーティリティ現地調査報告出席
- 8/7 コンテンツ課セッション参加（帝塚山学院大学）
- 8/8 NACSIS-CAT 入力業務等請負業者を対象とする目録システム講習会講師補助
- 8/21 第 2 回視聴覚資料検討会議 13：30～18：00
- 9/6 現物調査（東洋大学附属図書館・文京区白山）
- 9/12 IFLA 出張報告会出席
- 9/19 第 3 回開発・事業部専門研修：実務研修報告会発表、出席
- 9/19 第 3 回開発・事業部専門研修：IFLA 出張報告出席
- 9/21 第 3 回視聴覚資料検討会議（1 日目）14：00～19：00
- 9/22 第 3 回視聴覚資料検討会議（2 日目）10：00～14：30
- 9/26 総合目録データベース実務研修講師（検討成果中間発表）
- 9/29 研修終了

毎週 係内打ち合わせ

随時 取扱い案、コーディングマニュアル案作成・検討

3.2 研修テーマ設定の動機

以下の理由から、視聴覚資料に関する検討を研修テーマの希望としてあげた。5月に研修に関する打ち合わせをおこない、視聴覚資料の検討をおこなうこと、検討会議を開催することを決定した。

(1)所属大学での業務

所属大学では目録業務に従事し、附属図書館北分館を担当する。北分館はマルチメディア公開利用室を持ち、視聴覚資料の収集・利用に力を入れている。平成18年3月31日現在、3,284件(カセットテープ114件、ビデオテープ3,284件、LD391件、CD131件、DVD1,995件、その他382件)の視聴覚資料を所蔵する。また、年間100~200件を新規に購入し、CATへ登録をおこなっている。

(2)マニュアルの不備への不満

目録業務をおこなう際に、マニュアルが不十分であると感じていた。視聴覚資料には図書にはない特性があり、現行のコーディングマニュアルを適用するだけでは登録作業に支障が出る場面があった。たとえば、書誌レコードによって記述要素の項目が異なる、書誌記述単位のとりに統一性がみられない、新規書誌レコード作成基準があいまい、記述内容の不足で書誌の同定が困難といった状況を経験している。さらに、レコード調整で参加館同士の意見が分かれた場合、明確な基準がないために收拾がつかなくなる可能性があり、問合せを控えたことがあった。

コーディングマニュアルがない部分は、目録規則を参考にするが、DVDの記述例がないなど、現在の視聴覚資料の流通状況を反映していない部分があった。また、新規書誌作成の基準等のNACSIS-CATでの視聴覚資料のとりえ方の解釈を確認する必要を感じていた。

これまでも、オンラインニュースレターno.30「非図書資料の入力指針」(1992年)やQアンドAの回答で断片的にNIIの見解が出されていたが、業務上の問題を解決できるだけのものではなく、総合的なマニュアルの整備を強く望んでいた。

3.3 視聴覚資料に関する検討

(1)検討方法

以下の矢印の手順で検討作業を進めた。

選任担当者が検討用のマニュアル案を作成する。

検討会議のメンバーに作成した案を配布し、意見を集める。

メンバーでの議論となる場合もあり
必要に応じて、メーリングリスト、会議用サイトを使用する

集まった意見を元に、コーディングマニュアル案を修正する。

修正案をメンバーに配布し、再び意見を集める。
特に検討が必要な箇所は検討会議で話し合う

(2)コーディングマニュアル案作成

視聴覚関係の文献、所属大学で使用するローカルマニュアル、既存のコーディングマニュアル抜粋集を参考に、たたき台となる第一案を作成した。

検討会議メンバーからよせられた意見を元に、案の修正をおこなった。提案に対し、他のメンバーからの賛同が得られた意見、もしくは NII 内での検討で修正が妥当であると思われた意見を採用した。

(3)メーリングリスト運営

意見交換、事務連絡用にメーリングリストを使用した。検討会議のメンバーおよび目録情報管理係をメーリングリストのメンバーとした。企画調整課システム管理係に依頼し、Majordomo サーバーによる検討会議専用のメーリングリストを立ちあげた。同時に、メーリングリストの主催者になり管理運営を担当した。

(shichou@nii.ac.jp)

(4)会議用サイト開設

検討会議専用の web サイトを設置し、管理運営および更新作業をおこなった。サイトは作成した案の配布、参考文献リスト、参考リンクの保存等に使用した。一般には非公開とし、URL は会議メンバーおよび目録情報管理係にのみ通知した。また、外部からのリンクは控えてもらうようトップページに記載した。なお、検討が終了するまでの期間限定で運営し、コーディングマニュアルの運用開始後に削除される予定としている。

(<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/CAT/shicho/index>)

(5)文献調査

視聴覚資料に関する文献を探索した。図書館学関係の雑誌、研究者の個人サイト、図書館学の講座を持つ大学の紀要、図書館関係団体の機関誌を対象とした。国立国会図書館雑誌記事索引、カレントアウェアネス、CiNii、Google などを使用して探索をおこなった。web 上で入手可能な文献はダウンロードし、冊子体だけの文献は NII 内の図書室、および近くの大学図書館でコピーを入手した。近くの図書館には所蔵がないが、確認が必要と思

われた文献は図書室を通じて ILL での依頼により入手した。

(6)事例調査

NACISIS-CAT 以外で視聴覚資料の目録を作成しているところの現状、規則の存在の有無を調査し、参考となる文献を入手した。また、視聴覚資料を登録している図書館へ行き、書誌記述と資料本体の確認をおこなった。

- ・ 音楽図書館協議会で音楽資料の目録法を検討していることが判り、同協議会発行の「視聴覚資料と楽譜の目録・記述編」を購入した。
- ・ 国際図書館連盟 (IFLA) の視聴覚・マルチメディア分科会 (Audiovisual and Multimedia Section) が 2004 年に発行した「図書館その他機関における視聴覚・マルチメディア資料のためのガイドライン」(Guidelines for Audiovisual and Multimedia Materials in Libraries and Other Institutions) を IFLA のサイトよりダウンロードした。
- ・ 社団法人日本レコード協会 (RIA) が発行した日本レコード協会規格「RIS」(Record Industrial Standard) のうち、「CD の表示規格および各部分の名称」「DVD の表示規格および各部分の名称」などを RIA のサイトよりダウンロードした。この規格は、CD や DVD を日本国内で発売する際に、どのような表示をつけなくてはならないかを規定している。
- ・ 東洋大学附属図書館へ行き、CAT に登録されている書誌と資料の確認をおこなった。

(7)検討会議

NII より相原コンテンツ課課長補佐、目録情報管理係内藤係員、三瓶の 3 名が参加、外部委員として東京藝術大学、桐朋学園大学、国際日本文化研究センターより参加を願い、計 6 名で検討会議をおこなった。なお、外部委員の選定および就任依頼は目録情報管理係がおこない、研修開始時には決定していた。

おおよそ、月に 1 回のペースで会議を開催した。作成したコーディングマニュアル案について内容の確認と検討をおこない、検討事項の中で特に重要と考えられる部分について重点的に討議した。会議中に結論が出なかった箇所については、メーリングリスト等を使用して検討を継続し、次回の会議で確認することとした。

(8)議題

検討過程において、以下の議題が特に検討対象となった。

- ・ コーディングマニュアルの構成について。コーディングマニュアルを録音資料と映像資料で分割するかどうかについて検討した。
- ・ 準拠する目録規則について。図書と同じく和資料は日本目録規則 (NCR)、洋資料は英米目録規則 (AACR) に準拠することに問題はないものの、採用する版次について

意見が分かれた。目録規則の版次は既存の NII のマニュアル類においても統一されておらず、調査と検討を必要とした。

- ・ 適用範囲について。検討の対象となる視聴覚資料について NCR と AACR では規定されている資料の種類にずれがある。今回のコーディングマニュアルの適用をどの範囲にするかについて検討した。
- ・ 新規書誌作成基準について。視聴覚資料に特有の発行・発売事情による、洋盤の輸入版と国内プレス版、再発売された資料の取り扱いが議題にのぼる。また、附属資料の相違を新規書誌作成の根拠とするかどうかについて検討した。
- ・ 複合媒体資料について。種類の異なる媒体を収容する資料の書誌構造のとり方、主な媒体の判断方法、一般資料種別コード (GMD)、特定資料種別コード (SMD) の考え方について検討した。
- ・ 和資料と洋資料の判断について。和洋の判断の基準と情報源および優先順位について検討した。また、コーディングマニュアル 0.1.2 「和資料と洋資料」の選択事項に『音楽資料 (楽譜、マイクロ資料の楽譜、音楽録音資料、映画・ビデオレコードのうち内容が楽曲等の演奏であるもの) は、タイトル、本文等の言語に関わらず洋資料として登録できる』とあり、この規定についてもあわせて検討をおこなった。
- ・ 付属資料について。資料本体に付随する解説書など別媒体の資料および販売特典のうち、付属資料とみなすものの範囲について検討した。さらに、付属資料を記述する際の項目フィールドを PHYS と NOTE のどちらにするかについて、フィールドの記述方法について等の検討をおこなった。

(9)その他

検討会議開催にあたり、日程の調整、事務文書の作成・発送、会場の設営などの事務的作業をおこなった。

3.4 研修、報告会

(1)研修期間中に行われた以下の研修、報告会に参加した。

- ・ コンテンツ課セッション
- ・ 在外派遣研修報告会
- ・ 情報セキュリティ研修会
- ・ SPARC/Japan 連続セミナー
- ・ 学術ポータル担当者研修 (一部聴講)
- ・ 第 2 回開発・事業部専門研修：海外書誌ユーティリティ現地調査報告
- ・ NACSIS-CAT 入力業務等請負業者を対象とする目録システム講習会 (講師補助)
- ・ 第 3 回開発・事業部専門研修：IFLA 出張報告

(2)以下の研修、報告会で視聴覚資料に関する検討について発表した。

- ・ 第3回開発・事業部専門研修：実務研修報告会
- ・ 総合目録データベース実務研修

4.成果物

検討の結果、以下の3点を作成した。

(1)視聴覚資料に関する取扱いおよび解説(案)

視聴覚資料に関する取扱い指針、および解説について記述する。

冒頭で準拠する目録規則について宣言し、コーディングマニュアルが適用される資料の範囲について規定する。当初、日本目録規則1987年版改訂2版(NCR1987R2)および英米目録規則第2版(AACR2)としていたが、後の会議で最新版である日本目録規則1987年版第3版(NCR1987R3)、英米目録規則第2版2002年改訂2005年アップデート版(AACR2rev2002up2005)に変更した。NCR2、AACR2は発行年が古く、CDなどデジタル形式の資料についての記述例が乏しい一方、最新版には記述例が追加されているため。また、適用される資料の範囲がNCRとAACRで異なることを図示し、コーディングマニュアルではAACRの適用範囲に準拠することを宣言した。

視聴覚資料の特徴について述べ、目録業務をおこなう際に注意すべき点を解説した。

コーディングマニュアルの適用によって運用前から変更される点のうち、特に重要な箇所について解説した。

(2)コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)(案)録音資料編・映像資料編

録音資料編と映像資料編の二部構成とした。録音資料と映像資料では目録規則で適用される章が異なり(録音資料:6章、映像資料7章)、資料のとらえ方や書誌記述方法に違いが多く、一つにまとめた形ではかえって分かり辛くなると考えられたため。なお、書誌レコード作成単位および新規書誌レコード作成基準は共通であり、例示のみを変更した。

目録規則に従い、書誌レコード作成単位を容器ごととした。既存の書誌には収容された媒体をレコード作成単位とするものが少なくないため、媒体ごと書誌レコードを作成しないよう注意を促した。また、基本的な販売形態ごとの書誌記述例をあげた。

新規書誌レコード作成基準を示した。従来へのコーディングマニュアルにある新規書誌の基準を視聴覚資料にあてはめて整理すると共に、視聴覚資料に特有の新規書誌レコード作成基準を規定した。

資料の和洋を所定の情報源から判断することとした。また、コーディングマニュアル0.1.2「和資料と洋資料」の選択事項は廃止する。

各項目について、フィールドごとに記述例を交えて解説した。

目録規則に不足している記述例を補い、書誌作成時の参考となるようにした。

(3)コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)補足(案)

コーディングマニュアルに記載された事項のうち、補足が必要な部分について記述した。
視聴覚資料の用語のうち、一般になじみが薄い語について解説した。
主な視聴覚資料の標準的な形態を図示し、各部分の名称を解説した。
VTフィールドのタイトルの種類コードの使用範囲を拡大し、適用部分を解説した。

5.研修終了後の検討体制

研修期間中に最終案が完成しなかったため、10月以降も検討を継続する。今後は外部の検討委員として会議に参加する。

(1)事務局引き継ぎ

メーリングリストおよび会議用サイトの管理・運営を目録情報管理係に引き継いだ。
コーディングマニュアル案作成を目録情報管理係に引き継いだ。
会議開催にあたって必要となる事務的作業を目録情報管理係に引き継いだ。

(2)検討の継続

結論の出ていない事項について検討する。特に以下の2点について検討する。

- ・ 複合媒体資料の取り扱い
- ・ 書誌記述例作成

6.研修環境、受入体制

(1)生活環境について

- ・ NIIへは都内の実家より通ったので、生活環境に問題はなかった。
- ・ 気候の違いに慣れるまで時間がかかった。特に湿度の高さになかなか慣れなかった。
- ・ 所属大学に空調がないため、久しぶりに冷房にあたり続けることが辛かった。

(2)NIIの環境について

- ・ 専用の机とデスクトップPCを用意してもらい、研修中不便を感じることはなかった。
- ・ 研修生の立場があいまいなことが多く、気になった。たとえば、事務手続きで所属大学とNIIどちらの管轄になるのかわからないことがあり、戸惑った。
- ・ 研修開始前に初日のスケジュール(出勤時間・場所)や必要な手続きの一覧などを知らせて欲しかった。

7.研修の感想

3ヶ月は長いと思っていたが、終わってみればあっという間だった。研修期間が短いということで、短期集中的に検討していこうとした。専任担当者としては短い期間に集中できて良かったが、外部の委員にとっては日常業務に加えて検討作業を行わなくてはならないため、厳しいスケジュールだったと思う。結果として、積極的な意見交換がなされるようになるまでに時間がかかった。また、検討会議に関する打ち合わせが事前にできなかったため、初動が遅れた印象があった。そのあたりの事情を考慮して、もっと意見を引き出すような問いかけを最初からできていればよかった。研修期間の都合上仕方のないことであったが、夏休み期間を挟んだのは検討スケジュールとしてよくなかったのではないだろうか。実際、8月は大きなイベントがあって検討の時間がとれない、あるいは所属機関が休館するため出勤しない、といった出来事があり、意見交換が停滞した。研修期間中に検討が終わらず、引き継ぎをせざるを得なかったのは非常に残念だった。できることなら、最後まで担当したかった。

研修中に NII で行われた研修、講演会等に参加できたのが、とても有意義だった。普段は自分が担当している業務に直接関係のない事や、国外の動向にまで気を配る余裕がなかったので、この機会にもっと外に対しての意識を持とうと思った。

そもそもの動機は、マニュアルが欲しいという思いであり、無いなら作ってしまおうというものだった。最初は一参加館として、規則を自分の図書館の都合に合わせてたいという思いがあったが、実際に規則作成を進めていくうちに、それでは規則として成り立たないことがわかった。CATには1000以上の接続館があり、それぞれ異なる事情を抱えている。その中で、自館のことだけを考えるわけにはいかず、CAT全体の中での視聴覚資料の扱い方について考えていくように変化していった。結果として、CATの参加館としての視点と規則作成者としての視点の、二つの視点からコーディングマニュアルについて考えるようになった。また、ISBDや目録規則という土台があり、その上にCATの書誌も成り立っているということ、既存の考え方から逸脱してはいけないことを実感した。視聴覚資料のコーディングマニュアルが、目録に関わる規則の中でどの位置にあるのかを理解したうえで、検討をしなくてはならないと思った。

研修を通して、今までとは違った視点からCATや目録について考えることができた。この考え方を、今後の業務においても持ち続けるようにしたい。また、コーディングマニュアルが完成した暁には、同じように視聴覚資料の登録で悩んでいる方々の助けになることを願っている。

8.資料

資料1 視聴覚資料に関する取扱いおよび解説(案) ver.03.1

資料2 コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)録音資料編(案) ver.03.1

- 資料3 コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)映像資料編(案) ver.03.1
- 資料4 コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)補足(案) ver.03.1
- 資料5 実務研修報告会発表資料
- 資料6 総合目録データベース実務研修発表資料
- 資料7 視聴覚資料関係文献リスト
- 資料8 視聴覚資料の取扱いに関する検討会議 出席者名簿

視聴覚資料に関する取扱い及び解説

2006.9.21-

本取扱いでは、書誌レコード作成にあたって、視聴覚資料が図書資料と大きく異なる点を取りまとめた。ここでは各事項についての基本的考え方を示すにとどめ、詳細な規則や記述例については、別途作成している「コーディングマニュアル（視聴覚資料に関する抜粋集）」で規定する。

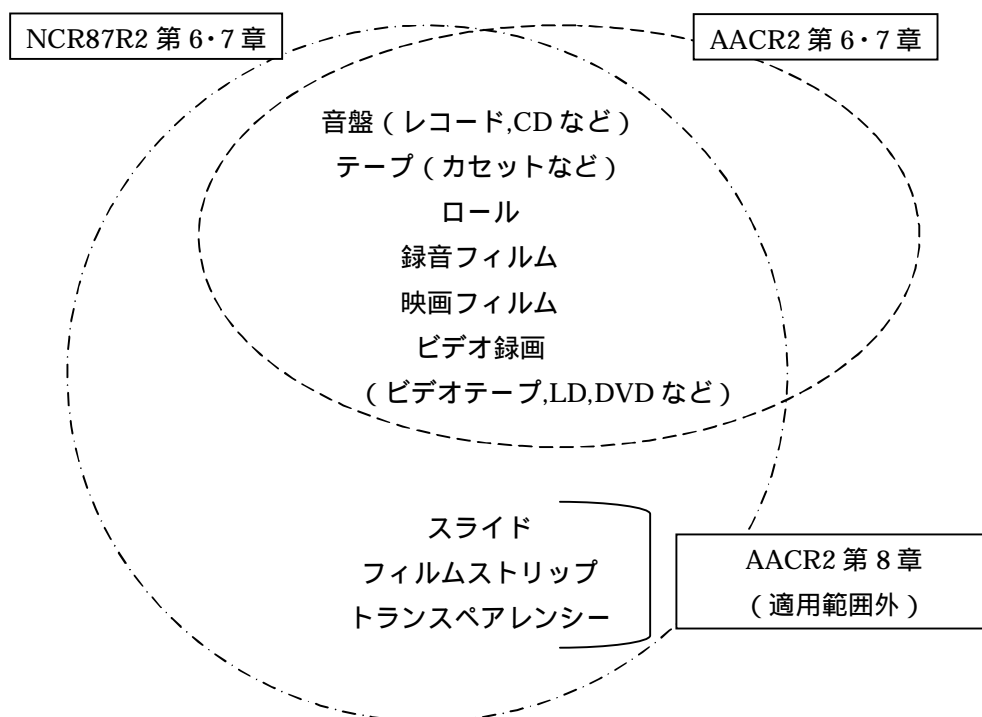
また、本取扱いおよび「コーディングマニュアル」は、基本的には日本目録規則 1987 年版改定 3 版（以下、NCR87R3）および英米目録規則第 2 版 2002 年改定版 2005 年アップデート（以下、AACR2）に準拠している。

1.適用範囲

1)録音資料 NCR87R3 第 6 章「録音資料」および AACR2 第 6 章「Sound recordings (録音物)」に規定されている資料

2)映像資料 NCR87R2 第 7 章「映像資料」および AACR2 第 7 章「Motion pictures and videorecordings (映画およびビデオ録画)」に規定されている資料

3) NCR87R2 では 7 章「映像資料」が適用され、AACR2 では 8 章「Graphic materials (静止画像)」適用される資料、たとえばスライド、フィルムストリップ、トランスペアレンシーなどは、この取扱いの適用外とする。これらの資料を登録する際には、既存のコーディングマニュアル、および NCR87R2 第 7 章または AACR2 第 8 章を適宜参照すること。



2.視聴覚資料の特性

視聴覚資料は以下のような特性を持つ

- 1)データを記録した媒体とそれを収める容器で構成されている。
- 2)映像の製作・配給者と DVD、ビデオ等の発売者が異なることが多く、その場合はライセンス契約によって販売の権利を得ている。
- 3)同じ内容の資料が標準番号、出版者番号を変えて再発売されることが多い。
- 4)資料の利用に媒体の種類、記録方式に合致した再生機器を必要とするため、再生方法が限定される。
- 5)視聴覚資料に表示される著作権マークには、以下の二種類がある。
 - ・ マーク：万国著作権条約により、著作権者の名前、最初に著作物を発行した年と共に表示することによって、著作権を得るために政府機関への登録等が必要な国においても、登録されているものと見なして著作権の保護を受けるためのマーク。
 - ・ マーク：実演家、レコード製作者及び放送事業者の保護に関する国際条約（実演家等保護条約）および許諾を得ないレコードの複製からのレコード製作者の保護に関する条約（レコード保護条約）により、最初に発行した年、レコード製作者又はその許諾を得た者の名や商標などと共に表示することによって、実演家、レコード製作者が著作隣接権を得るために政府機関への登録等が必要な国においても、登録されているものと見なして著作隣接権の保護を受けるためのマーク。ベスト盤など、収録された楽曲によって最初に発行された年が異なる場合、すべての発行年を記載する必要がある。

3.補足

1)資料の和洋区分は録音資料、映像資料の各コーディングマニュアルによることとし、従来の音楽資料は洋資料として一括登録できるとある（CM0.1.2の(2)）のは廃止する。

2)形態に関する事項を記録する場合、大きさの単位はすべて cm 単位で記録する。AACR2 では音盤および映像リール、ディスクの大きさをインチで表現するとあるが、これは採用しない。

国際単位系(SI)により、長さの基本単位はメートル法が国際標準となっているため、および AACR2 にインチ表示の例示が少なく、書誌作成館が独自に cm 表示の大きさをインチへ変換する際に、ゆれが生じるのを防ぐためである。

以上

コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)
録音資料編

2006.9.21-

0.レコードの作成単位

1)書誌単位は目録情報の基準 4.2.1 による。

2)視聴覚資料における単行書誌単位は最小の容器とする。

最小の容器とは、媒体(CD、レコード、カセットテープ等)を直接収容するものを指す。たとえば、紙箱に CD のプラスチックケースが複数収容されている場合は、プラスチックケースを最小の容器をみなす。

3)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合、媒体単位で書誌レコードおよび巻次を作成してはならない。たとえば、1つのCDのプラスチックケースにCDが2枚以上収容されている場合、CDごとに書誌レコードおよび巻次を作成しない。ただし、内袋(不織布、紙、ビニール等)はたとえタイトルなどの情報が表示されている場合であっても、最小の容器とはみなさない。

個々の媒体については、数量を PHYS で表し、必要に応じて内容に関する事項を CW あるいは NOTE に記録する。参加館の事情により、媒体ごとの管理が必要な場合はローカルデータで対応する。

(例)最小の容器に1つの媒体が収容されている場合

TR:交響曲第9番二短調作品 125 : 「合唱」 / ベートーヴェン コウキョウキョク ダイ9バン ニ タンチョウ サクヒン 125 : 「ガッシュョウ」 PHYS:録音ディスク 1 枚 (70 分) : デジタル, ステレオ ; 12cm
--

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合・1

TR:どこかで聴いたクラシック・ベスト 101 ドコカデ キイタ クラシック・ベスト 101 PHYS:録音ディスク 6 枚 : デジタル, ステレオ ; 12cm CW:ディスク 1: アメイジング・グレイス アメイジング・グレイス CW:タンホイザー序曲から タンホンザー ジョキョク カラ CW:ディスク 2: …

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合・2

(例示) 内容を NOTE に書く例

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されていて、媒体ごとに固有のタイトルがついている場合

(例示)

(例) シリーズ物:それぞれの容器ごとに固有のタイトルがある場合

TR:山と海へのあこがれ||ヤマ ト ウミ エノ アコガレ
 PHYS:録音ディスク 1 枚 (73 分) : デジタル, ステレオ ; 12cm
 PTBL:CD 日本の叙情歌愛唱歌大全集||CD ニホン ノ ジョジョウカ アイショウカ
 ダイゼンシュウ <BA55372813> 3

TR:日本の旅路||ニホン ノ タビジ
 PHYS:録音ディスク 1 枚 (63 分) : デジタル, ステレオ ; 12cm
 PTBL:CD 日本の叙情歌愛唱歌大全集||CD ニホン ノ ジョジョウカ アイショウカ
 ダイゼンシュウ <BA55372813> 4

(例) セット物:それぞれの容器ごとに固有のタイトルがない場合

VOL: vol.1
 VOL: vol.2
 ...
 VOL: vol.10
 TR:金子みすゞ大全集||カネコ ミスズ ダイゼンシュウ
 PHYS: 録音ディスク 10 枚 : デジタル ; 12cm + 冊子

(例) 複数の容器が外箱に収容されており、また、容器にも複数の媒体が収容されている場合・1
 それぞれの容器に固有のタイトルがある場合

(例示)

(例) 複数の容器が外箱に収容されており、また、容器にも複数の媒体が収容されている場合・2
 それぞれの容器に固有のタイトルがない場合

(例示)

4) 種類の異なる媒体が最小の容器にまとめて収容されている資料(複合媒体資料)は、発売元がどの媒体を主体にしているかによって、どの媒体を主体として書誌を作成するかを判断する。

主な媒体について情報源に明記されているときはそれを採用する。

情報源から主な媒体が確認できない場合、先頭に収容されているものを主な媒体とみなす。

1.新規レコード作成の指針

以下のような場合は、新規書誌レコード作成の根拠となる。なお、新規書誌レコード作成にあた

っては、書誌事項の比較等により総合的に慎重に判断を行う。

1.1 一般資料種別コード GMD / 特定資料種別コード SMD

GMD コードおよび SMD コードの相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・複合媒体資料における主な媒体の判断の相違

1.2 版に関する事項 ED

これらのデータ要素の相違は、新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・[通常版]、普及版、廉価版等の内容の相違を表さない表示のみの相違

1.3 出版・頒布等に関する事項 PUB

1.3.1 出版者・頒布者等

出版者、販売者、頒布者の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

例えば、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

- ・洋盤における輸入盤と国内プレス盤の相違。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・販売者、頒布者が異なることが情報源から確認できず、付属資料の有無などからの推測にとどまる場合

1.3.2 出版、頒布等の日付

出版年の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

著作権年の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、同じ内容の資料が標準番号、出版者番号を変えて再発売されることが多く、出版年は図書でいう刷の年にあたる場合が多いため、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・出版年のみ相違
- ・標準番号のみ相違
- ・出版年及び標準番号のみの相違

1.4 形態に関する事項 PHYS

1.4.1 数量

数量の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

例えば、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

- ・収録時間数の相違

・収容媒体数の相違

1.4.2 その他の形態的細目

その他の形態的細目の相違だけでは、新規レコード作成の根拠とならない。
ただし、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

・記録・再生方式の相違

(例) アナログ デジタル
アナログレコード コンパクトディスク

・媒体の種類相違

(例) カセットテープ コンパクトディスク

1.4.3 大きさ、附属資料

販売時における附属資料の相違は、新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

・PHYS に記録されない附属資料の相違

1.5 その他のフィールド

内容が同一であっても、ばら売りと CD-BOX のように販売形態が異なる場合は、新規レコード作成の根拠となりうる

2.和資料と洋資料

コーディングマニュアル(以下 CM)0.1.2[通則]に基づき、和資料であるか洋資料であるかを判断する。

資料の和洋区分は原則としてレーベルに表示されたタイトルの言語による。

1)レーベルに表示されたタイトルが日本語、韓国語、中国語の場合は和資料として NCR87R2 を適用し、日本語、韓国語、中国語以外の場合は洋資料として AACR2 を適用する。

2)レーベルに日本語、韓国語、中国語とそれ以外の言語が併記されている場合、字体や文字の大きさ、印刷上の強調の程度といったレイアウトや表現の仕方から判断する。判断がつかない場合は、収録物の言語から和洋を選択する。楽器演奏、環境音など収録物に言語がない場合は、出版国に日本が含まれているかどうかを考慮する。出版国に日本が含まれている場合は和資料、含まれていない場合は洋資料として登録する。

3)レーベルからタイトルを確認できない場合は、附属資料、容器から判断する。

4)ただし、収録内容からみて不適当と考えられる場合は、収録物の言語によることができる。たとえば、タイトルの言語が外国語だが収録内容が日本語である場合は検索、利用の便宜を考慮して、和資料としてレコードを作成することができる。

3. 通則

3.1 一般資料種別コード GMD

資料に対応する一般資料種別コードを記録する。

3.2 特定資料種別コード SMD

資料に対応する特定資料種別コードを記録する。

3.3 本文の言語コード TXTL

収録物に使用されている言語の言語コードを記録する。

ブックレットなどの付属資料の言語は、記録しない。

(例) フランス語歌曲とドイツ語歌曲のオムニバス

TXTL:freger

器楽曲等の言語を使用しないもの、あるいは自然音などの言語を特定できないものは言語名不明とする。

(例) ピアノ・ソナタ集

TXTL:und

3.4 原本の言語コード ORGL

オリジナルの音声の言語コードを記録する。

(例) ドイツ歌曲が日本語で歌われている場合

ORGL:ger

3.5 その他の番号 OTHN

録音資料の発行者番号を記録する。

レーベル名は転記せず、注記に記録する。

(例) 和資料

(例示)

(例) 洋資料

OTHN:LANO:28DC5303
NOTE:CBS Sony:28DC5303

一つの書誌が複数の番号を持つ場合はフィールドを繰り返してすべて転記し、注記に説明を記録する。

(例) 発行者番号が変わった場合

OTHN:LANO:19FH7901
 OTHN:LANO:19FHG7901
 NOTE:廉価版: LANO:19FHG7901

(例) 複数の媒体がそれぞれ発行者番号を持つ場合

OTHN:LANO:27RI598
 OTHN:LANO:27RI599
 NOTE:Disc1: LANO:27RI598, Disc2: LANO:27RI599

3.6 巻冊次等 VOL

ISBN、価格を記録する。

一つの書誌が複数の ISBN を持つ場合はフィールドを繰り返してすべて転記する。

(例)

VOL::[通常版] ISBN:4863541261 PRICE:5700 円
 VOL::廉価版 ISBN:4863541375 PRICE:2300 円

3.7 タイトルおよび責任表示に関する事項 TR

3.7.1 タイトル

本タイトルは原則としてレーベルからとる。

レーベルが複数ある場合は、全体を一つの情報源として記録する。レーベルに総合タイトルがなく、付属資料や容器に総合タイトルがある場合は、付属資料や容器をレーベルと同等に扱う。

レーベルに記載がない場合は付属資料、容器からとる。

レーベル以外の情報源からタイトルを採用した場合は、必ずその旨を NOTE に記録する。

3.7.2 責任表示

NCR87R2 または AACR2 に則り責任表示を記録する。

1)和資料の場合は、執筆者(語り)・作曲者(音楽)、収集者、原作者、演奏者、指揮者ほかを記録する。

(例)

TR:交響曲第 39 番&第 40 番 / モーツァルト [作曲]; ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ; レナード・バーンスタイン, [指揮] || コウキョウキョク ダイ 39 バン & ダイ 40 バン

主情報源に表示されていない責任表示は NOTE に記録する。

(例)

(例示)

2)洋資料の場合は、執筆者(語り)・作曲者(音楽)、収集者を記録し、演奏者は注記に記録する。

(例)

TR:Sinfonien Nr. 39 & Nr. 40 / Mozart
NOTE:Mozarteum Orchester Salzburg ; Ivor Bolton, conductor

主情報源に表示されていない責任表示は NOTE に記録する。

(例)

(例示)

ただし、一般的にロックミュージックのような演奏者が作品の単なる演奏、演奏、演出にとどまらない場合、責任表示として記録する。

TR:Beach Boys greatest hits / Beach Boys

3.8 版に関する事項 ED

内容に違いがあることを示す版次を記録する。

ただし、通常版、普及版、廉価版と情報源に記載されていても、記録しない。

「決定盤(版)」などの疑似版表示は版表示とみなさない。

3.9 出版・頒布等に関する事項 PUB

出版に関する事項を記録する。

発行者、頒布者の相違は、新規レコード作成の根拠となりうるため、出版者のほかに発行者、頒布者がある場合、それを記録する。

著作権年の相違は、新規レコード作成の根拠となりうるため、出版年と共に、収録物の または に続く著作権表示年のうち、最新のものを記録する。

に続く最新の著作権表示年と に続く最新の著作権表示年が同じ場合、 に続けて記録する。

録音年は注記に記録する。

キャップなどの情報源とならない箇所にもみ表示された販売者、頒布者は記録しない。

(例)和資料

PUB:東京 : 山の上研究所
PUB:東京 : 大友ミュージック (販売) , 2004.8, c2004

(例)洋資料

PUB:Hamburg : Deutsche Grammophon
PUB:Japan : Polydor [distributor] , p1977

3.10 形態に関する事項 PHYS

形態に関する事項を記録する。

媒体、大きさについて記録する。

1)数量には媒体の数量を記録し、丸括弧で合計の収録時間数を記録する。

2つ以上の再生時間を合計しその内訳が判明している場合は、注記に内訳を記録する。

和資料の場合、表示された時間数の秒数を繰上げて記録する。

洋資料の場合、表示されたとおりの時間数を記録する。

(例)和資料

PHYS:録音ディスク 1 枚 (63 分): デジタル, ステレオ ; 12cm

(例)洋資料

PHYS:1 sound disc (74 min. 27sec.) : digital, stereo. ; 12 cm

(例)複数媒体の合計

PHYS:2 sound discs (128 min.) : digital, stereo. ; 12 cm

NOTE:Disc 1: 55 min., Disc 2: 73 min

複合媒体資料の場合、媒体ごとの数量を記録し、個々の媒体については注記に記録する。

(例)

PHYS:1 sound disc, 1 videodisc, 1 booklet : ; in container, 18 x 25 x 20 cm

NOTE:1 sound disc (48 min.) : digital, stereo ; 12 cm

NOTE:1 videodisc (35 min.) : col. ; 12 cm

NOTE:1 booklet (105 p.) : ill. ; 18 cm

2)その他の形態的細目には音の記録方式、再生速度などを記録する。

(例)和資料

PHYS:録音ディスク 1 枚 (17 分): アナログ, 45rpm, モノラル ; 17cm

(例)洋資料

PHYS:1 sound disc (37 min.) : analog, 33 1/3 rpm, stereo. ; 12 in

3)大きさには媒体そのものの大きさを記録する。

大きさは cm 単位で記録する。

複数資料の大きさが異なる場合、最小のものと最大のものをハイフンで結んで記録する。

(例)

PHYS:録音ディスク 2 枚 (92 分): デジタル, ステレオ ; 8-12cm

NOTE:Disc1: 12cm, Disc2: 8cm

音盤以外の媒体で標準の大きさの場合これを記録しない。
容器の大きさを記録する場合は NOTE に記録する。

4) 付属資料がある場合は、それを記録する。

以下の基準に従い、記録するフィールドを決定する。

PHYS: 資料本体と同時に刊行され、その資料とともに利用されている付属物

(例) 解説書、地図、録音ディスク、映像ディスク、CD-ROM、楽譜など

NOTE: PHYS に記録される以外のもの

(例) 絵葉書、ステッカー、貯金箱など

ただし、資料本体を同じ媒体の付属資料は、資料本体に含める。

(例) 和資料

PHYS: 録音ディスク 1 枚 (14 分): デジタル, ステレオ ; 8cm + 解説書

(例) 洋資料

PHYS: 1 sound disc (12 min., 43 sec.): digital, mono. ; 8 cm + booklet

3.11 その他のタイトル VT

本タイトルに採用しなかったタイトルを記録する。

記録するタイトルが主情報源上にある場合は、表示箇所に対応したタイトルの種類コードを使用する。

ない場合は、コード VT を使用する。

(例)

TR: Piano concerto no. 23 / Mozart . Piano concerto no. 5 : Emperor / Beethoven

VT: VT: ピアノ協奏曲第 23 番イ長調 K.488 | | ピアノ キョウソウキョク ダイ 23 バン イ チョウチョウ K.488

VT: VT: ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調作品 73: (皇帝) | | ピアノ キョウソウキョク ダイ 5 バン ヘン ホ チョウチョウ サクヒン 73: (コウテイ)

3.12 内容著作注記 CW

収録されている楽曲または録音資料のタイトル、責任表示を記録する。

(例) 和資料

CW: カルメン組曲第 1 番 | | カルメン クミキョク ダイ 1 バン

CW: カルメン組曲第 2 番 | | カルメン クミキョク ダイ 2 バン

CW: アルルの女組曲第 1 番 | | アルル ノ オンナ クミキョク ダイ 1 バン

CW: アルルの女組曲第 2 番 | | アルル ノ オンナ クミキョク ダイ 2 バン

(例) 洋資料

CW:Sonata no. 1 in G minor BWV 1001

CW:Partita no. 1 in B minor BWV 1002

3.13 注記 NOTE

目録対象資料に関する注記を記録する。

記録される事項には次のものがある。

・他のどのフィールドにも記録できないが、記録しておくことが望ましいと目録作成機関が判断した事項

・他のフィールドに記録した事項で、さらに補足・説明を加えることが望ましいと目録作成機関が判断した事項

1) 収録物の内容や演奏手段、収録時の状況に関する事項を記録する。

(例)

NOTE:For piano

NOTE:Field recording of birdsong

2) 収録物の言語を記録する。

(例) 和資料

NOTE:歌詞: フランス語

(例) 洋資料

NOTE:Sung in German

NOTE:In French, introduced in English

3) 総合タイトルをレーベル以外からとった場合、タイトルの根拠を記録する。

(例) 和資料

NOTE:タイトルは容器による

(例) 洋資料

NOTE:Title from case

4) 演奏者等 TR フィールドに記録しなかった責任表示を記録する。

(例) 和資料

NOTE:NHK 交響楽団 ; 岩城宏之, 指揮

(例) 洋資料

NOTE: Tokyo Kosei Wind Orchestra ; Frederick Fennell, conductor

5) 収録場所、収録年月日を記録する。

(例) 和資料

NOTE: 録音: 1986 年 8 月 29-30 日 上野学園メモリアルホール

NOTE: 1951 年 7 月 29 日, バトロイト音楽祭でのライブ録音

NOTE: 1992 年 6 月 11 日, 大阪コスモ証券ホールにて収録

(例) 洋資料

NOTE: Recorded: 25-28 August, 2003 at Saitama Arts Theater

NOTE: Recorded in Vienna in 1961

6) 形態に関する事項を記録する。

2 つ以上の再生時間を合計しその内訳が判明している場合、その内訳を記録する。

(例)

NOTE: Disc 1: 48 分, Disc 2: 59 分

複合媒体資料の個々の媒体について記録する。

(例)

NOTE: 1 sound disc (48 min.) : digital, stereo ; 4 3/4 in

NOTE: 1 videodisc (35 min.) : col. ; 4 3/4 in

NOTE: 1 booklet (105 p.) : ill. ; 18 cm

媒体の種類を記録する。

(例) 和資料

NOTE: コンパクトディスク

(例) 洋資料

NOTE: Compact disc

容器の大きさを記録する。

(例)

NOTE:容器の大きさ 15cm

7) 付属資料に関する事項を記録する。

(例)

NOTE:販売特典: キャラクターズステッカー

PHYS フィールドに記述した付属資料の説明を記述する

(例)

(例示)

8) 録音資料の発行者番号に関する事項を記録する

レーベル名を記録する。

(例)

NOTE: CBS Sony: 28DC5303

複数の番号を持つ場合、番号の説明を記録する。

NOTE: 廉価版: LANO: 19FHG7901

NOTE: Disc 1: LANO: 27RI598, Disc 2: LANO: 27RI599

9) その他収録物、販売に関する情報を記録する。

10) 「取扱い上の注意」「レンタル禁止」などの注意事項は記録しない。

3.14 著者名リンク AL

TR フィールドに記録した責任表示は AL を作成する。

注記に記録した責任表示のうち、特に重要と思われる責任表示も AL を作成する。

(例)

TR: Violin concertos / Mendelssohn, Tchaikovsky

NOTE: Akiko Suwanai, violin ; Czech Philharmonic Orchestra ; Vladimir Ashkenazy, conductor

AL: Mendelssohn-Bartholdy, Felix, 1809-1847 <DA0314640X>

AL: Tchaikovsky, Peter Ilich, 1840-1893 <DA02705357>

AL: 諏訪内, 晶子(1972-) || スワナイ, アキコ <DA08905199>

AL: Česká filharmonie <DA05368956>

AL:Ashkenazy, Vladimir, 1937- <DA05322467>

3.15 統一書名リンク UTL

収録楽曲の統一書名リンクを作成する (CM 付録3 音楽作品の統一タイトル 参照)

(例)

TR:Piano sonata no. 32 in C minor, op. 111 = ピアノ奏鳴曲第 32 番八短調, 作品 111 /
Beethoven

UTL:Beethoven, Ludwig van, 1770-1827 -- Sonatas, piano, no. 32, op. 111, C minor
<EA0002640X>

以上

コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)
映像資料編

2006.9.21-

0.レコードの作成単位

1)書誌単位は目録情報の基準 4.2.1 による。

2)視聴覚資料における単行書誌単位は最小の容器とする。

最小の容器とは、媒体(DVD、LD、ビデオテープ等)を直接収容するものを指す。たとえば、紙箱にDVDのプラスチックケースが複数収容されている場合は、プラスチックケースを最小の容器をみなす。

3)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合、媒体単位で書誌レコードおよび巻次を作成してはならない。たとえば、1つのDVDのプラスチックケースにDVDが2枚以上収容されている場合、DVDごとに書誌レコードおよび巻次を作成しない。ただし、内袋(不織布、紙、ビニール等)はたとえタイトルなどの情報が表示されている場合であっても、最小の容器とはみなさない。

個々の媒体については、数量を PHYS で表し、必要に応じて内容に関する事項を CW あるいは NOTE に記録する。参加館の事情により、媒体ごとの管理が必要な場合はローカルデータで対応する。

(例)最小の容器に1つの媒体が収容されている場合

(例示)

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合・1

(例示)

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されている場合・2

(例示)

(例)最小の容器に複数の媒体が収容されていて、媒体ごとに固有のタイトルがついている場合

(例示)

(例)シリーズ物:それぞれの容器に固有のタイトルがある場合

TR:朝日のような夕日をつれて'91 / 鴻上尚史作・演出 | アサヒ ノ ヨウナ ヌウヒ オ ツレテ '91
PHYS:ビデオディスク 1 枚 (125 分) : DVD, カラー ; 12cm

PTBL:第三舞台 Vintage box <BA67440885>

TR:ピルグリム / 鴻上尚史作・演出 | |ピルグリム

PHYS:録音ディスク 1 枚 (112 分) : DVD, カラー ; 12cm

PTBL:第三舞台 Vintage box <BA67440885>

(例) セット物:それぞれの容器に固有のタイトルがない場合

VOL:vol.1

VOL:vol.2

...

VOL:vol.7

TR:ちゅらさん | |チュラサン

PHYS:ビデオディスク 13 枚 (2340 分) : DVD, カラー ; 12cm

NOTE:収録時間: 各ディスク 180 分

(例) 複数の容器が外箱に収容されており、また、容器にも複数の媒体が収容されている場合・1
それぞれの容器に固有のタイトルがある場合

(例示)

(例) 複数の容器が外箱に収容されており、また、容器にも複数の媒体が収容されている場合・2
それぞれの容器に固有のタイトルがない場合

(例示)

4) 種類の異なる媒体が最小の容器にまとめて収容されている資料(複合媒体資料)は、発売元がどの媒体を主体にしているかによって、どの媒体を主体として書誌を作成するか判断する。

主な媒体について情報源に明記されているときはそれを採用する。

情報源から主な媒体が確認できない場合、先頭に収容されているものを主な媒体とみなす。

1.新規レコード作成の指針

以下のような場合は、新規書誌レコード作成の根拠となる。なお、新規書誌レコード作成にあたっては、書誌事項の比較等により総合的に慎重に判断を行う。

1.1 一般資料種別コード GMD / 特定資料種別コード SMD

GMD コードおよび SMD コードの相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・複合媒体資料における主な媒体の判断の相違

1.2 版に関する事項 ED

これらのデータ要素の相違は、新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・[通常版]、普及版、廉価版等の内容の相違を表さない表示のみの相違

1.3 出版・頒布等に関する事項 PUB

1.3.1 出版者・頒布者等

出版者、販売者、頒布者の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

例えば、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

- ・洋盤における輸入盤と国内プレス盤の相違。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・販売者、頒布者が異なることが情報源から確認できず、付属資料の有無などからの推測にとどまる場合

1.3.2 出版、頒布等の日付

出版年の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

著作権年の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、同じ内容の資料が標準番号、出版者番号を変えて再発売されることが多く、出版年は図書でいう刷の年にあたる場合が多いため、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

- ・出版年のみの相違
- ・標準番号のみの相違
- ・出版年及び標準番号のみの相違

1.4 形態に関する事項 PHYS

1.4.1 数量

数量の相違は新規レコード作成の根拠となりうる。

例えば、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

- ・収録時間数の相違
- ・収容媒体数の相違

1.4.2 その他の形態的細目

その他の形態的細目の相違だけでは、新規レコード作成の根拠とならない。

ただし、次のような場合は、新規レコードの作成が妥当である可能性が高い。

・記録・再生方式の相違

(例) アナログ デジタル

VHS ベータ Uマチック

・媒体の種類相違

(例) ビデオテープ DVD

1.4.3 大きさ、附属資料

販売時における附属資料の相違は、新規レコード作成の根拠となりうる。

ただし、次の理由だけでは新規レコード作成の根拠とならない。

・PHYS に記録されない附属資料の相違

1.5 その他のフィールド

内容が同一であっても、ばら売りや DVD-BOX のように販売形態が異なる場合は、新規レコード作成の根拠となりうる。

2.和資料と洋資料

コーディングマニュアル(以下 CM)0.1.2[通則]に基づき、和資料であるか洋資料であるかを判断する。

資料の和洋区分は原則として、最初に表示されるタイトルフレームに表示されたタイトルの言語による。

ただし、メニュー画面はタイトルフレームに含まない。

1)タイトルフレームが日本語、韓国語、中国語の場合は和資料として NCR87R2 を適用し、日本語、韓国語、中国語以外の場合は洋資料として AACR2 を適用する。

2)タイトルフレームに日本語、韓国語、中国語とそれ以外の言語が併記されている場合は、収録物の言語により和洋を判断する。楽器演奏、環境音など収録物に言語がない場合は、出版国に日本が含まれているかどうかを考慮する。出版国に日本が含まれている場合は和資料、含まれていない場合は洋資料として登録する。

3)タイトルフレームからタイトルを確認できない場合は、ラベル、附属資料、容器から判断する。

4)収録内容からみて不適当と考えられる場合は、収録物の言語によることができる。

たとえば、タイトルフレームの言語が外国語だが、日本で製作され収録内容があきらかに日本語である場合は、検索、利用の便宜を考慮して、和資料として書誌レコードを作成することができる。

ただし、字幕および吹替えの音声は判断の対象とならない。

3.通則

3.1 一般資料種別コード GMD

資料に対応する一般資料種別コードを記録する。

3.2 特定資料種別コード SMD

資料に対応する特定資料種別コードを記録する。

3.3 本文の言語コード TXTL

作中で使用されている言語、字幕の言語の言語コードを記録する。

(例) オリジナル音声英語、日本語吹替、日本語字幕

TXTL:engjpn

以下のものは言語名不明とする。

- 1) 音声、字幕が収録されていないもの
- 2) 器楽曲等の言語を使用しないもの
- 3) 自然音などの言語を特定できないもの

(例) 環境音集

TXTL:und

3.4 原本の言語コード ORGL

映像のオリジナル音声の言語コードを記録する。

(例) オリジナル音声フランス語、日本語吹替、日本語字幕

ORGL:fre

3.5 その他の番号 OTHN

映像資料の発行者番号を記録する。

一つの書誌が複数の番号を持つ場合はフィールドを繰り返してすべて転記し、NOTE に説明を記録する。

(例) 再発売されて VMN が変わった場合

OTHN:VMN:NWD-09575

OTHN:VMN:NWPD-09575

NOTE:再発売: VMN:NWPD-09575

(例) 複数の媒体がそれぞれ VMN を持つ場合

OTHN:VMN:TOBW-3513

OTHN:VMN:TOBW-3516

NOTE:Disc 1: TOBW-3513, Disc 2: TOBW-3516

3.6 巻冊次等 VOL

ISBN、価格を記録する。

一つの書誌が複数の ISBN を持つ場合はフィールドを繰り返してすべて転記する。

(例)

VOL::[通常版] ISBN:4489536104 PRICE:8500 円
VOL:: 普及版 ISBN:4489536910 PRICE:4000 円

3.7 タイトル及び責任表示に関する事項 TR

3.7.1 タイトル

本タイトルは原則としてタイトルフレームからとる。

オリジナルタイトルフレームの前に別言語のタイトルが挿入されている場合、オリジナルタイトルフレームを主情報源とする。

作成館の事情によりタイトルフレームを確認できない場合、ラベルから本タイトルをとり、NOTE にその旨記録する。

(例)和資料

TR:羅生門 / 黒澤明監督 ; 芥川龍之介原作 ; 黒澤明, 橋本忍脚本 ラショウモン
NOTE:タイトルはラベルによる

(例)洋資料

TR:Choreography by Balanchine
NOTE:Title from container

TR:The art of Josef Suk / Czechoslovak Television, Prague
NOTE:Title from labels

3.7.2 責任表示

責任表示は情報源上に表示されている順に記録する。

その中で収録物への貢献度の低いものは、NOTE に記録してもよい。

「協力」「出演」「監修」「ナレーター」は記録せず、NOTE に記録する。

同一役割内での記録の順番は、情報源に表示されたとおりとする。

(例)

TR:点子ちゃんとアントン / カロリーヌ・リンク監督・脚本 ; エーリヒ・ケストナー原作 ; ペーター・ツェンク, ウッシー・ライヒ製作 テンコチャント アントン
VT:OR: Punktchen und Anton

TR:スペイン : 父の祖国で / BBC(英国放送協会)企画・製作 スペイン : チチ ノ ソコク デ
--

TR:The NBA 100 greatest plays / director by Jim Podhoretz
 NOTE:Multimedia production and programming Larry Weitzman
 NOTE:Producer: Steve Michaud, Steven Browning
 NOTE:Directors of photography: Michael Winik, Peter Winik
 NOTE:Narrator: Wil Lyma

3.8 版に関する事項 ED

内容に違いがあることを示す版次を記録する。

ただし、通常版、普及版、廉価版と主情報源に記載されていても、記録しない。

「決定盤(版)」などの疑似版表示は版表示とみなさない。

3.9 出版・頒布等に関する事項 PUB

出版に関する事項を記録する。

発行者、頒布者の相違は、新規レコード作成の根拠となりうるため、出版者のほかに発行者、頒布者がある場合、それを記録する。

著作権年の相違は、新規レコード作成の根拠となりうるため、出版年と共に、収録物の または に続く著作権表示年のうち、最新のものを記録する。

に続く最新の著作権表示年と に続く最新の著作権表示年と同じ場合、 に続けて記録する。

(例) 和資料

PUB:[東京] : 群像舎 (発売)
 PUB:[東京] : コニービデオ (販売) , 2004, c1988

(例) 洋資料

PUB:Princeton : Films for the Humanities & Sciences , c2004

3.10 形態に関する事項 PHYS

媒体、画面、大きさについて記録する。

1)数量には媒体の数量を記録し、丸括弧で合計の再生時間数を記録する。

和資料の場合、表示された時間数の秒数を繰上げて記録する。

洋資料の場合、表示されたとおりの時間数を記録する。

(例) 和資料

PHYS:ビデオカセット 1 巻 (89 分) : VHS, 白黒

(例) 洋資料

PHYS:1 videodisc (120 min. 47sec.) : sd., b&w ; 4 3/4 in

2 つ以上の再生時間を合計しその内訳が判明している場合は、注記に内訳を記録する。

(例) 2 つ以上の再生時間を合計し、内訳がわかる場合

PHYS:ビデオディスク 2 枚 (268 分) : DVD, カラー ; 12cm

NOTE:Disc 1: 186 分, Disc 2: 82 分

(例) 2 つ以上の再生時間を合計し、内訳がわからない場合

PHYS:3 videodiscs (810min.) : sd., col. ; 4 3/4in

特典映像の収録時間数が不明な時は、“(時間数+特典映像)”と記録する。

(例) 特典映像(収録時間不明) つきの場合 和資料

PHYS:ビデオディスク 1 枚 (本編 74 分+特典映像) : DVD, カラー ; 12cm

(例) 洋資料

PHYS:1 videodisc (84 min.) : sd., col. ; 4 3/4 in

複合媒体資料の場合、媒体ごとの数量を記録し、個々の媒体については NOTE に記録する。

(例)

PHYS:1 videodisc, 1 sound disc, 1 booklet : ; in container, 18 x 25 x 20 cm

NOTE:1 videodisc (35 min.) : sd., col. ; 4 3/4 in

NOTE:1 sound disc (48 min.) : digital, stereo ; 4 3/4 in

NOTE:1 booklet (105 p.) : ill. ; 18 cm

2) その他の形態的細目を目録規則に従って記述する。

記録・再生方式の相違は新規レコード作成の根拠となりうるため、記録・再生方式が判明している場合は、必ずそれを記録する。

洋資料の場合、NOTE に記録・再生方式を記録する。

(例) 和資料

PHYS:ビデオディスク 1 枚 (105 分) : DVD, カラー

(例) 洋資料

PHYS:1 videodisc (65 min.) : sd., b&w ; 4 3/4 in

NOTE:DVD-video

3) 大きさには媒体そのものの大きさを記録する。

容器の大きさは NOTE に記録する。

4) 付属資料がある場合は、それを記録する。

ただし、資料本体を同じ媒体の付属資料は、資料本体に含める。

以下の基準に従い、記録するフィールドを決定する。

PHYS: 資料本体と同時に刊行され、その資料とともに利用されている付属物

(例) 解説書、地図、録音ディスク、映像ディスク、CD-ROM、楽譜など

NOTE: PHYS に記録される以外のもの

(例) 絵葉書、ステッカー、貯金箱など

(例) 和資料

PHYS:ビデオカセット 1 巻 (43 分): ベータ, カラー ; + 解説書 1 冊

(例) 洋資料

PHYS:1 videocassette (28 min., 17 sec.) : sd., col. ; + 1 booklet

3.11 その他のタイトル VT

本タイトルに採用しなかったタイトルを記録する。

1) オリジナル映像の原題はコード OR を使用する。

2) 映画などの原作小説のタイトルが主情報源上に記載されている場合はコード OH と NOTE を、
ない場合はコード VT と NOTE を使用する。

(例)

TR:アメリカの友人 / ヴィム・ヴェンダース監督 ; パトリシア・ハイスミス原作 || アメリカ / ユウジン

VT:OR:Der amerikanische Freund

VT:OH:Ripley's game

NOTE:原作: Ripley's game / Patricia Highsmith

3.12 内容著作注記 CW

収録されている映像のタイトル、責任表示を記録する。

3.13 注記 NOTE

目録対象資料に関する注記を記録する。

記録される事項には次のものがある。

・他のどのフィールドにも記録できないが、記録しておくことが望ましいと目録作成機関が判断した事項

・他のフィールドに記録した事項で、さらに補足・説明を加えることが望ましいと目録作成機関が判断した事項

1) 収録物の音声・字幕の言語を記録する。

(例) オリジナル音声: 英語 吹替え: 日本語 字幕: 日本語

NOTE: 英語, 日本語吹替え

NOTE:日本語字幕

(例)オリジナル音声:フランス語、中国語 字幕:日本語

NOTE:フランス語, 中国語音声 ; 日本語字幕

(例)オリジナル音声:英語、フランス語 字幕:英語

NOTE:In English, French

NOTE:Subtitles: English

(例)オリジナル歌唱:イタリア語 字幕:日本語、英語、フランス語、スペイン語

NOTE:Sung in Italian; with Japanese, English, French and Spanish subtitles

2)タイトルに関する事項を記録する

本タイトルをタイトルフレーム以外からとった場合、タイトルの根拠を記録する。

(例)和資料

NOTE:タイトルはラベルによる

(例)洋資料

NOTE:Title from label

総合タイトルをレーベル以外からとった場合、タイトルの根拠を記録する。

(例)和資料

NOTE:タイトルは容器による

(例)洋資料

NOTE:Title from case

3)その他のタイトルに関する説明事項を記録する。

(例)

NOTE:原作: Ripley's game / Patricia Highsmith

4)TR フィールドに記録しなかった責任表示を記録する。

(例)和資料

NOTE:出演: 三船敏郎, 佐藤允, 団令子 ほか

NOTE:ナレーション: 森本レオ

NOTE:監修: 磯野忠雄

(例)洋資料

NOTE:Cast: Ewan McGregor, Natarie Portman, Hayden Christensen ...[et.al.]

NOTE:Narrator: Hugh Johnson

NOTE:Executive Producer: Steven Cole

5)映像の製作年、製作国を記録する。

(例)

NOTE: 1975 年アメリカ映画

NOTE: 2001 年日中合作作品

NOTE: 1998 Japan

6)形態に関する事項を記録する。

2 つ以上の再生時間を合計しその内訳が判明している場合、その内訳を記録する。

(例)

NOTE:Disc 1: 186 分, Disc 2: 82 分

複合媒体資料の個々の媒体について記録する。

(例)

NOTE:1 videodisc (35 min.) : col. ; 4 3/4 in

NOTE:1 sound disc (48 min.) : digital, stereo ; 4 3/4 in

NOTE:1 booklet (105 p.) : ill. ; 18 cm

洋資料の場合、記録・再生方式について記録する

(例)

NOTE:DVD-video

容器の大きさを記録する。

(例)

NOTE:容器の大きさ 19cm

7)付属資料、販売特典に関する事項を記録する。

(例)

NOTE:初回特典: 特製ポストカード

8)その他映像、販売等に関する情報を記録する。

(例)

NOTE:活弁トーキー版

9)VMN に関する事項を記録する

複数の番号を持つ場合、番号の説明を記録する。

(例)

NOTE:再発売: VMN:NWPD-09575

NOTE:Disc 1: TOBW-3513, Disc 2: TOBW-3516

10)「取扱い上の注意」「レンタル禁止」などの注意事項は記録しない。

3.14 著者名リンク AL

TR フィールドに記録した責任表示は AL を作成する。

注記に記録した責任表示のうち、特に重要と思われる責任表示も AL を作成する。

(例)

TR:雨あがる / 小泉堯史監督 ; 山本周五郎原作 ; 黒澤明脚本

NOTE:キャスト: 寺尾聰, 宮崎美子, 三船史郎 ほか

AL:小泉, 堯史(1944-) || コイズミ, タカシ<DA13414833>

AL:山本, 周五郎(1903-1967) || ヤマモト, シュウゴロウ<DA00660575>

AL:黒沢, 明(1910-1998) || クロサワ, アキラ<DA0180598X>

AL:寺尾, 聰(1947-) || テラオ, サトシ<DA13414844>

AL:宮崎, 美子(1958-) || ミヤザキ, ヨシコ<DA12804672>

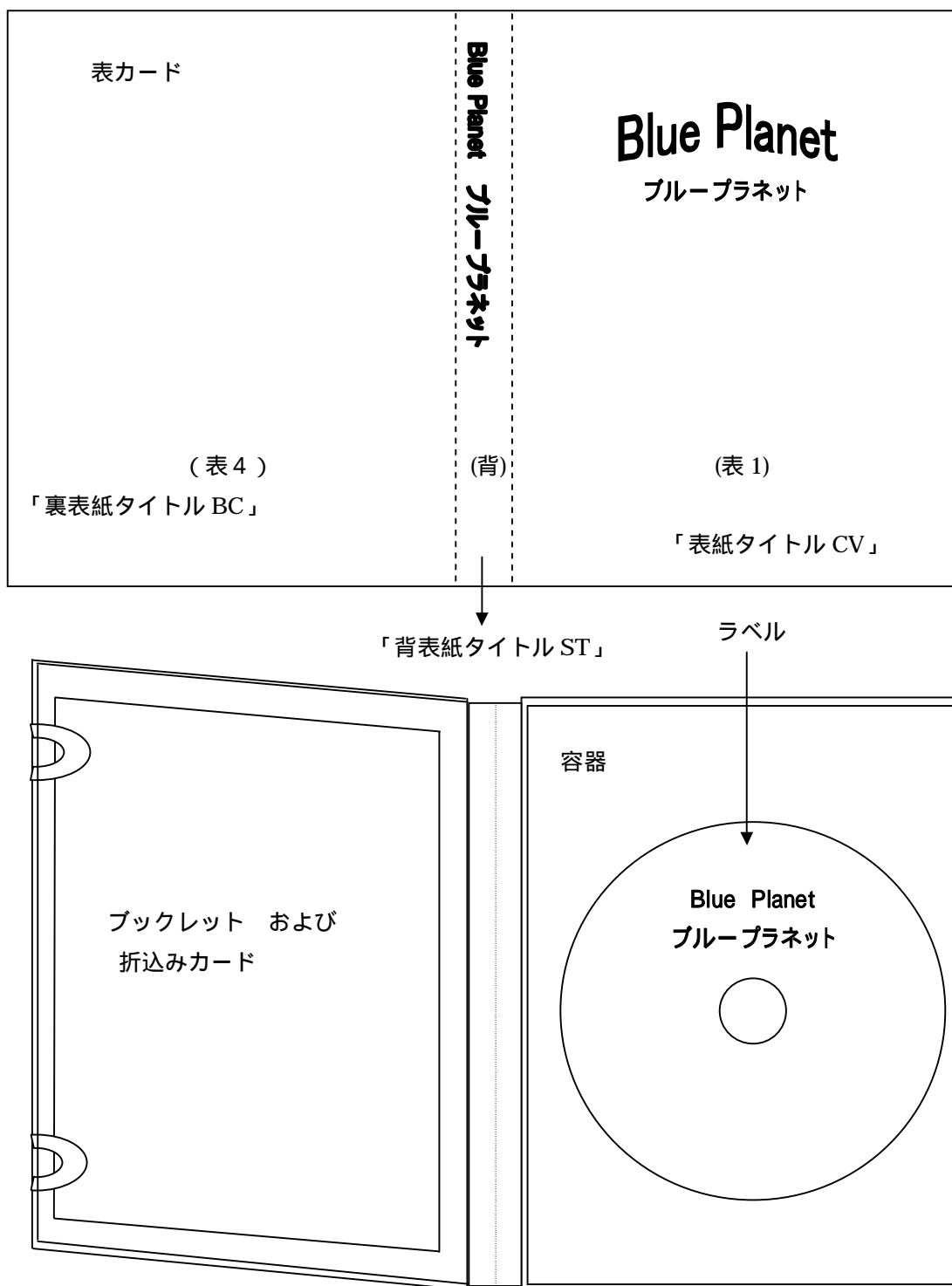
AL:三船, 史郎(1950-) || ミフネ, シロウ<DA13414855>

以上

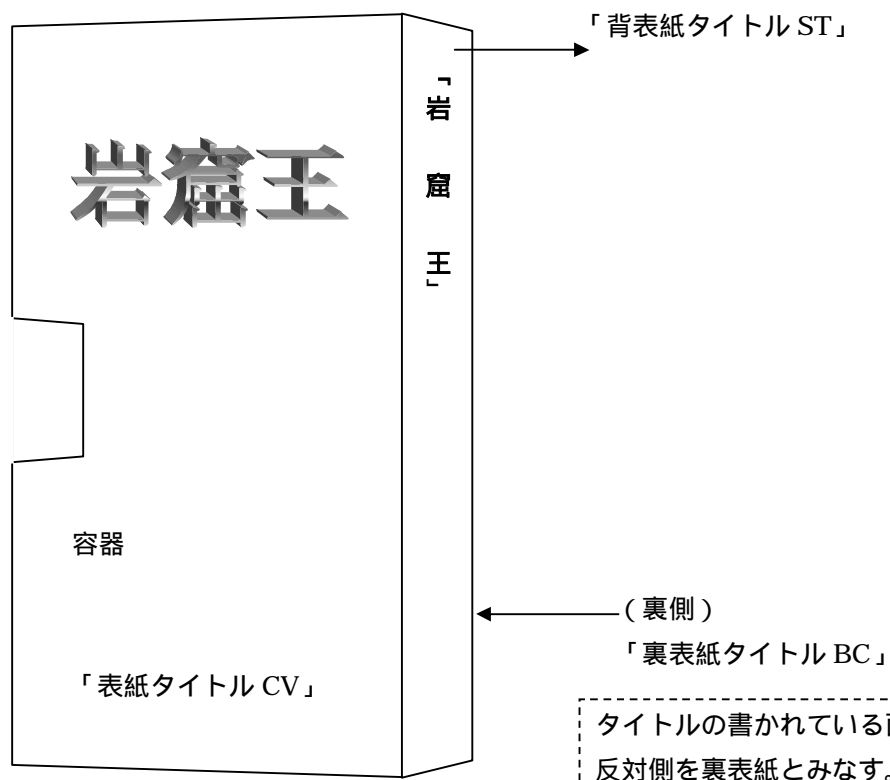
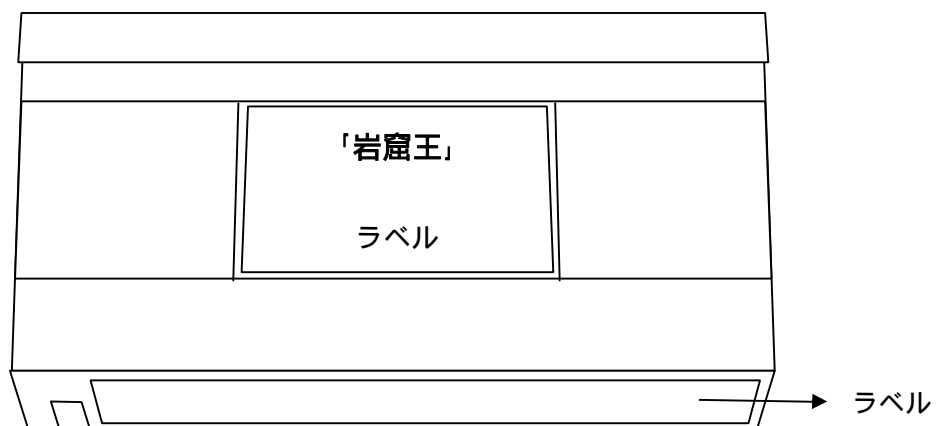
コーディングマニュアル（視聴覚資料に関する抜粋集）補足

2006.9.21-

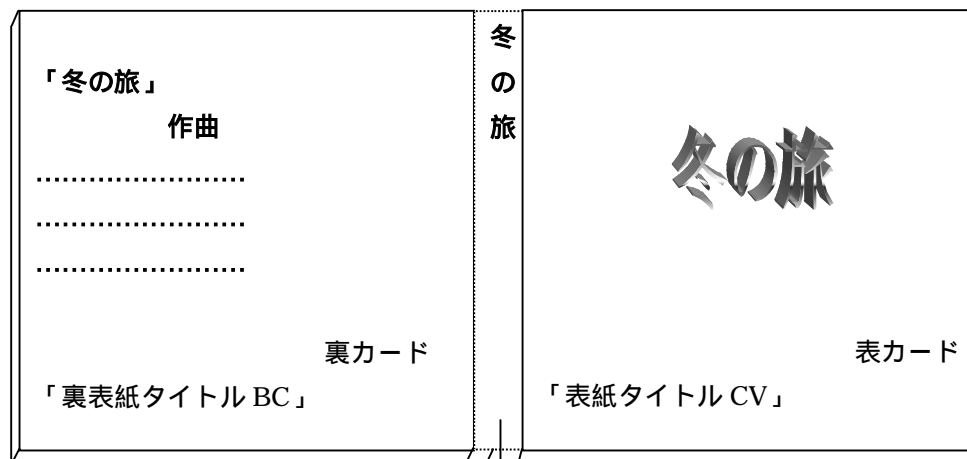
1. 『DVD 他 19cm トールケース』



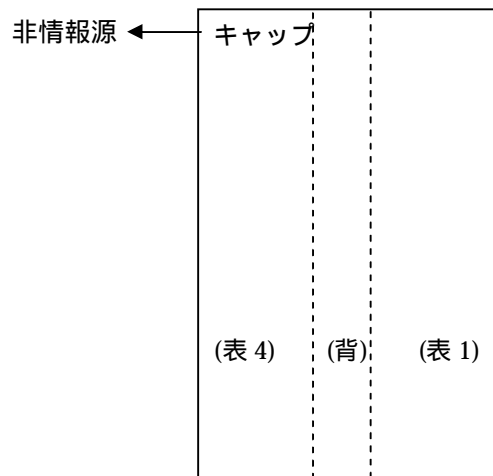
2. 『ビデオカセット』



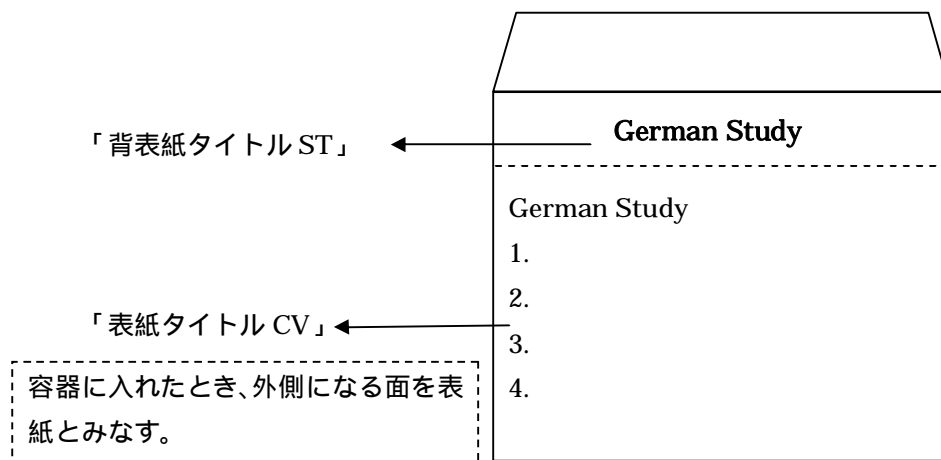
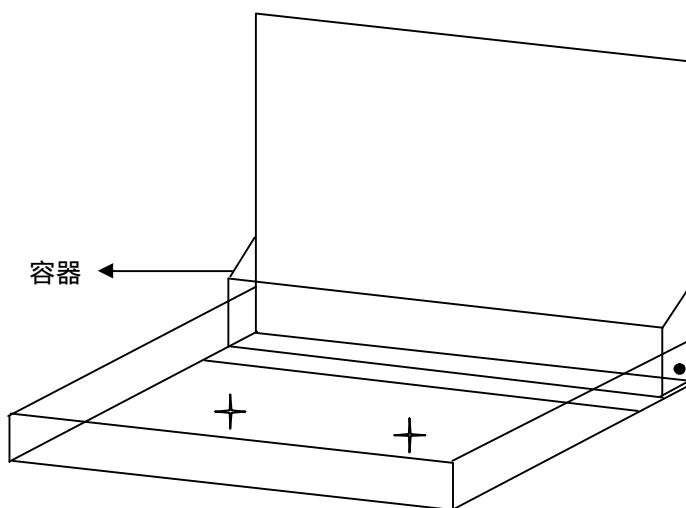
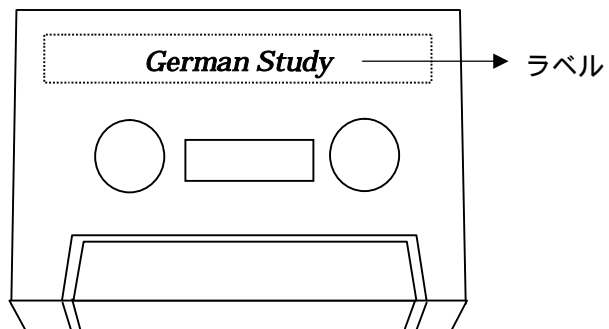
3. 『CD、DVD 他 ジュエルケース』



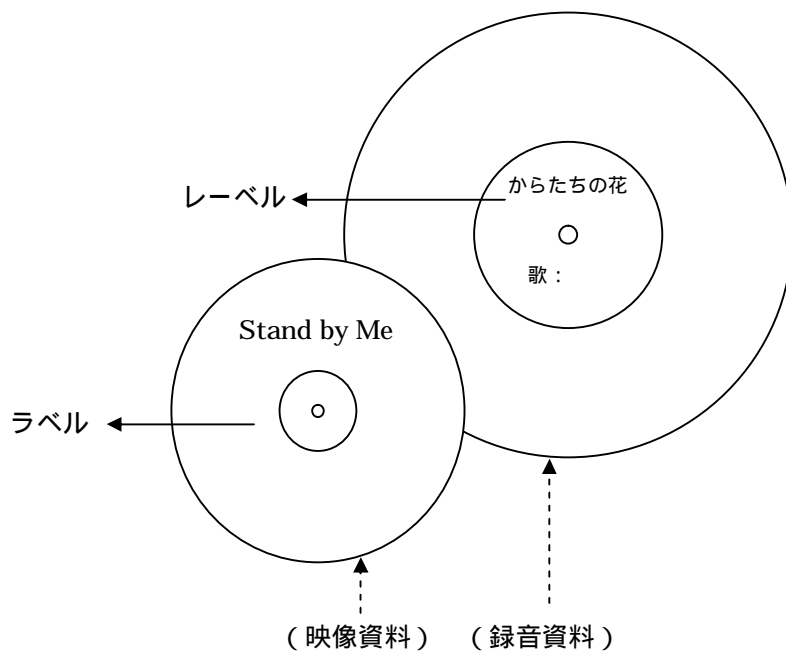
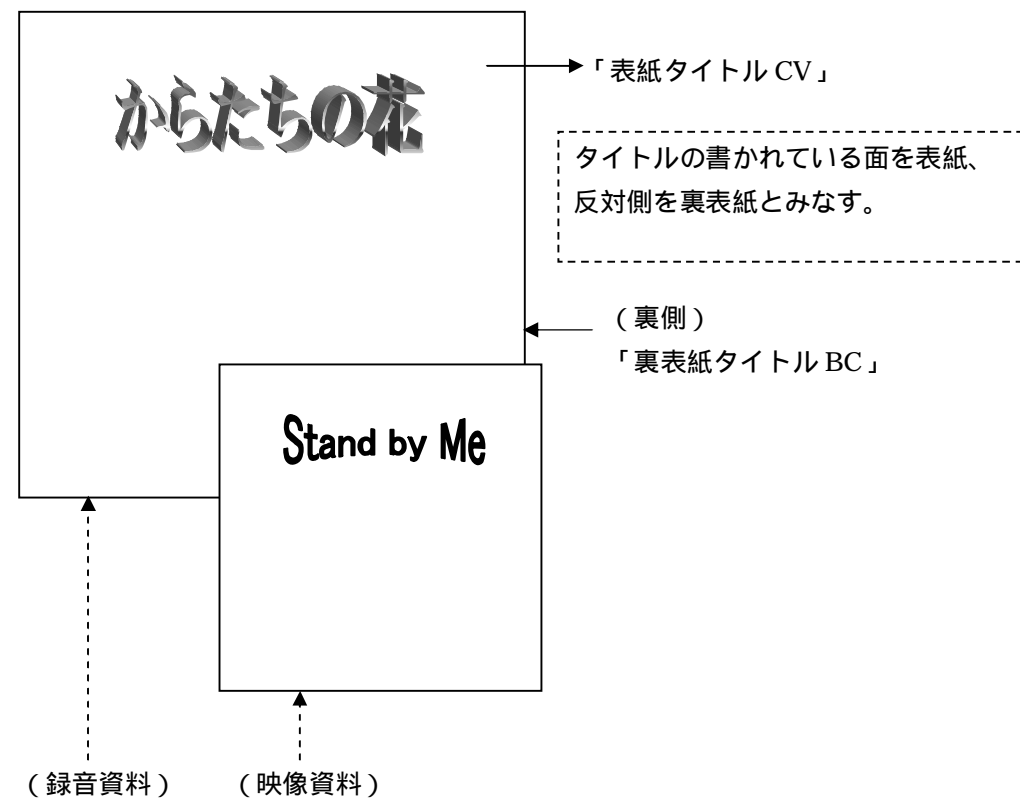
「背表紙タイトル ST」



4. 『カセットテープ』



5. 『レコード、LD その他紙ジャケット入り音盤』



各部分の名称は、
日本レコード協会規格「RIS204 オーディオ CD の表示事項及び表示方法」
「RIS403 DVD ビデオの表示事項及び表示方法」
による。



実務研修成果報告

コンテンツ課目録情報管理係実務研修生
三瓶由紀子



概要

- 研修期間
平成18年7月3日～9月29日
- 受け入れ先
コンテンツ課目録情報管理係
- 研修内容
視聴覚資料のコーディングマニュアル作成

職場環境紹介(1)

- 北海道大学附属図書館
<http://www.lib.hokudai.ac.jp/>
- 附属図書館北分館
<http://www.lib.hokudai.ac.jp/bunkan/>

マルチメディア公開利用室

<http://www.lib.hokudai.ac.jp/bunkan/services/multimedia/multimedia.html#av>

映像資料検索

http://www.lib.hokudai.ac.jp/av_search/avdb.html

職場環境紹介(2)

- 北海道大学附属図書館情報システム課目録情報第二係
担当: 北分館・スラブ研究センター
レコード調整
構成: 係長1、係員1、非常勤3

平成18年4月 北分館整理業務統合

平成19年4月 全学整理業務統合(予定)



研修テーマ設定の動機

- 視聴覚資料登録業務
- 登録時の問題
- 基準整備の必要性



研修内容(1) スケジュール

- 7月 文献調査、事例調査
マニュアル案作成
第1回会議開催
- 8月 マニュアル案作成・検討
第2回会議開催
- 9月 マニュアル案作成・検討
第3回会議開催



研修内容(2) 検討方法

- 案の作成
- 内容検討
- メーリングリストの使用
shichou@nii.ac.jp
- 会議用webページの設置
<http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/CAT/shicho/index>



研修内容(3) 作業

- 文献調査
- 事例調査
- 案の作成
- メーリングリスト主催
- Webページ管理
- 会議資料作成
- 会議開催の事務手続き



研修内容(4) 会議

- 検討会議メンバー
NIIスタッフ+CAT参加館より3名
- 開催頻度
月1回
- 検討事項



成果物


- 視聴覚資料に関する取扱いおよび解説
(案)
- コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)(案)
- コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)補足(案)

成果物(1) 取扱いおよび解説

- コーディングマニュアルの適用範囲
日本目録規則と英米目録規則
- 視聴覚資料の特性
図書資料との違い
視聴覚資料に特有の性質

成果物(2) コーディングマニュアル

- 特徴
録音資料編、映像資料編の2部構成
書誌レコード作成単位
和洋区分
記述例
- 検討事項
付属資料、販売特典の取扱い
複合媒体資料の取扱い



成果物(3) 補足

- 取扱い、コーディングマニュアルの補足
用語の解説
主な視聴覚資料の解説
VTフィールドの定義



今後の予定

- 第3回検討会議の開催(9/21,22)
- 検討の継続
- 事務局の引継ぎ
- 10月末の公開を目指す



まとめ

- 研修期間、研修環境
- 検討作業
- 成果物
- その他



視聴覚資料の取扱いに関する検討 について

コンテンツ課目録情報管理係実務研修生
三瓶由紀子

平成18年度総合目録データベース実務研修 平成18年9月26日



国立情報学研究所実務研修

- 実務研修とは
 - ・対象
 - ・研修期間
 - ・研修内容

- 研修テーマ
「視聴覚資料のコーディングマニュアル作成」



研修テーマ設定の動機

- 視聴覚資料の目録業務
 - ・北海道大学附属図書館北分館
- 目録時の問題
 - ・書誌登録時
 - ・所蔵登録時
 - ・書誌レコード調整
- マニュアルの必要性
 - ・考え方
 - ・書誌記述の基準・方法



研修内容(1) スケジュール

- 7月 文献調査、事例調査、マニュアル案作成
第1回会議開催
- 8月 事例調査、マニュアル案作成・検討
第2回会議開催
- 9月 事例調査、マニュアル案作成・検討
第3回会議開催
- 10月 事例調査、マニュアル案作成・検討
第4回会議開催



研修内容(2) 検討方法

- 案の作成
- 内容検討
- メーリングリストの使用
- 会議用webページの設置



研修内容(3) 作業

- 文献調査
- 事例調査
- 案の作成
- メーリングリスト主催
- Webページ管理
- 会議資料作成
- 会議開催の事務手続き

研修内容(4) 会議

- 検討会議メンバー
 - ・NIIスタッフ2名+CAT参加館より3名+実務研修生
- 開催頻度
 - ・月1回
- 主な検討事項
 - ・目録作成時の考え方
 - ・文章の内容
 - ・記述例

成果物


- 視聴覚資料に関する取扱いおよび解説(案)
- コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)(案)
- コーディングマニュアル(視聴覚資料に関する抜粋集)補足(案)

成果物(1) 取扱いおよび解説

- 準拠する目録規則
 - ・日本目録規則と英米目録規則
 - ・コーディングマニュアルの適用範囲
- 視聴覚資料の特性
 - ・図書資料との違い
 - ・視聴覚資料に特有の性質

成果物(2) コーディングマニュアル

- 特徴
 - ・構成：録音資料編、映像資料編
 - ・書誌レコード作成単位
 - ・和洋区分
 - ・付属資料
 - ・記録・再生方式
 - ・記述例
- 検討事項
 - ・複合媒体資料



成果物(3) 補足

- 取扱い、コーディングマニュアルの補足
 - ・用語の解説
 - ・主な視聴覚資料の解説
 - ・VTフィールドの定義



今後の予定

- 第4回検討会議の開催(10月中旬)
- 検討の継続
 - ・未決定事項の検討
 - ・記述例の追加
 - ・事務局引継ぎ
- 案の公開・意見公募
- 2006年度中の運用開始を目指す



まとめ

- 検討作業
- 作成物



おわりに

- コーディングマニュアルを作ること
- 二つの視点
 - 参加館としての考え方
 - 規則作成者としての考え方
- NIIへの働きかけ

視聴覚資料関係文献リスト

[図書]

- ・視聴覚資料組織法：画像・映像・録音資料の整理と利用 / 黒岩高明 1979.6 学校図書
- ・学校図書館のための視聴覚資料の組織化 / 山田知[ツグ] 2002.4 全国学校図書館協議会
- ・コンピュータ時代の図書館と視聴覚資料 / 平尾行蔵, 松下鈞 1983.7 アカデミア・ミュージック(発売)
- ・視聴覚資料整理法 / 大塚澄, 高橋重臣 1956.9 蘭書房
- ・視聴覚資料研究 / 私立大学図書館協会東地区部会研究部視聴覚資料研究分科会編 1992.7 私立大学図書館協会東地区部会研究部視聴覚資料研究分科会
- ・視聴覚資料 / 矢口新 1954.1 春陽堂書店
- ・資料特論(新現代図書館学講座 14) / 木野主計他 1998.1 東京書籍
- ・非印刷媒体の調査報告書 / 日本図書館協会調査委員会 2001.3 日本図書館協会
- ・大学図書館の理論と実践 1990.12-2005.7 日本私立大学協会
- ・視聴覚資料と楽譜の目録 / 勝山ゆかり, 細田勉 2001.3 音楽図書館協議会
- ・全国公共図書館研究集会報告 1997 年度 p 1-26
- ・全国公共図書館研究集会報告 2000 年度 p 15-17

[雑誌]

- ・視聴覚資料の収集と管理(2): その収集と整理 / 山田知[ツグ] 1996.6 学校図書館(548) 75-77
- ・視聴覚資料の収集と管理(3): その収集と整理 / 山田知[ツグ] 1996.7 学校図書館(549) 76-78
- ・視聴覚資料の収集と整理 1997.12 学校図書館(566) 15-50
- 視聴覚資料の組織化 1981.8 学校図書館(370) 22-25
- ・視聴覚資料の整理について 1952.5 学校図書館(19) 21-25
- ・視聴覚資料(特にコンピュータ・ソフト)の整理・提供 未来を開く教育 1998.12 (115) 83-88
- ・視聴覚資料の目録記述に関する比較考察 / 黒岩高明 1979 図書館短期大学紀要(16) 135-142
- ・視聴覚資料論序説 / 黒岩高明 1975 図書館短期大学紀要(8) 53-64
- ・ユネスコ国際教育局(IBE)における視聴覚資料の機械化目録の作成—CDS/ISIS マニュアルに基づいて / 福田郁代 1998 専門図書館(117) 26-32
- ・視聴覚資料の有効活用 / 落合美代 1999 私立大学図書館協会会報(112) 79-82

- ・視聴覚資料の活用と問題 / 落合美代 1999 私立大学図書館協会会報(108) 116-121
- ・大学図書館における視聴覚資料の収集・整理・利用 / 高桑康雄 1971 学術月報(24(11)) 14-21
- ・特集図書館資料を問う 視聴覚資料 1994 現代の図書館(32(3)) 159-203
- ・大学図書館における視聴覚資料のハンドリング / 落合美代 1999 情報の科学と技術(49(3)) 1999
- ・視聴覚資料研究
- ・図書館と映像資料
- ・視聴覚資料研究分科会報告

[電子資料]

- ・図書館その他機関における視聴覚資料・マルチメディア資料のためのガイドライン IFLA
<http://www.ifla.org/VII/s35/pubs/avm-guidelines04.pdf>
- ・オーディオ CD の表示事項及び表示方法 日本レコード協会
<http://www.riaj.or.jp/issue/ris/pdf/ris204.pdf>
- ・DVD ビデオの表示事項及び表示方法 日本レコード協会
<http://www.riaj.or.jp/issue/ris/pdf/ris403.pdf>

視聴覚資料の取扱いに関する検討会議 出席者名簿

氏名	所属・職名
島 恵子	東京芸術大学附属図書館 図書情報係長
松田 泰代	国際日本文化センター 資料課 目録情報係長
中村 浩子	桐朋学園大学音楽学部附属図書館 情報管理課

氏名	所属・職名
相原 雪乃	国立情報学研究所開発・事業部 コンテンツ課 課長補佐
内藤 裕美子	国立情報学研究所開発・事業部 コンテンツ課 目録情報管理係
三瓶 由紀子	国立情報学研究所開発・事業部 コンテンツ課 目録情報管理係

以上